

農家の生活を変える教材

ソンラ省のコーヒー生産農家がよりよい生活を送ることができるよう、国際開発救援財団(FIDR)は現地のタイバック大学と協力し、日常生活を変えるためのヒントをまとめた教材を作成しています。

昨年プロジェクト開始以来、農家の暮らしや課題について詳しい情報を収集してきました。農家の大半はタイ族と呼ばれる少数民族で、独自の言葉や伝統的な生活様式や風習を大切にしています。木と竹を用いて造った高床式家屋に住み、米、野菜、スモモやドラゴンフルーツといった果物を栽培したり、牛や鶏などの家畜を育てて、自給自足に近い生活を営んでいます。

ここの人々にとってコーヒーの栽培は貴重な現金収入の手段となっています。しかし、暮らし向きは決して楽ではありません。せっかく収入が得られても、それを計画的に使うことに慣れておらず、生活費や農業資機材購入のために借金を重ね、貧困から脱出できない世帯が少なくありません。この地域には、女性の識字率が低いことや、家庭の衛生環境が悪いことも大きな課題となっています。

そこで、プロジェクトではコーヒー生産農家、特に女性のライフスキルを高めるために、「5S 活動」「身の回りを清潔に」「健康的な食事をとりましょう」「家計管理」などのテーマで教材を作成しました。いずれも実生活に結びついた基本的な知識を、図や写真を多用した分かりやすい説明で伝えています。今後、この教材を勉強会などで活用しながら、講師や農家からの意見を受けてさらに改善を加え、できるだけ役立つツールにしてまいります。



農家の声を元に教材を作成します

今年のコーヒー収穫期が楽しみです

6月末から7月にかけて、コーヒーがたわわに実り始めました。先月頃からは、その鮮やかな緑色が畑一面に広がっています。農家の方々は、雑草取り、枝の剪定、害虫や病気の予防といった作業に励んでいます。

今年のコーヒー生豆の国際相場は上昇傾向を示していますので、ソンラ省の生産農家も、コーヒーの納入価格が上がるのでは、と期待しています。これまでの研修で得た技術を実践して、今年も良いコーヒー豆をたくさん収穫したいという思いがあふれています。



鮮やかな緑色のコーヒーの実がたわわに実っています